

平成 24 年度香川栄養学園事業計画

(女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部・香川調理製菓専門学校)

一、施設・設備の主たる整備計画

支 出 の 部

(単位：千円)

事 項	事 業 内 容	事業費	財 源	実施時期
駒込校舎改修工事	3号館製菓第1実習室AVシステム設備更新	6,000	自己資金	平成24年4月
同上	全館各実習室等設置後10年超の大型給湯器6台更新	5,000	自己資金	平成24年8月
同上	3号館・生涯学習センターGHP室内外機更新	55,000	自己資金	平成24年8月
同上	専門学校調理実習室、準備室、普通教室新設並びに事務室移設等	100,000	自己資金	平成24年9月
駒込校舎合計		166,000		
坂戸校舎改修工事	2号館調理実習室、準備室ブラウン管モニター19台液晶に更新	8,000	自己資金	平成24年4月
同上	6号館外壁等全面修繕	45,000	自己資金	平成24年8月
同上	2号館学生ホール改修工事	6,000	自己資金	平成24年8月
同上	若葉寮電気集中検針システム更新	11,500	自己資金	平成24年8月
坂戸校舎合計		70,500		
合計		236,500		

二、その他の主要事業計画

収 入 の 部

事 項	計 画 内 容
学納金	18歳人口減少、社会の経済的動向、管理栄養士養成施設増加、消費増税の動きなど、私学経営の厳しい環境での学納金収入の伸びは期待できない。安定的確実に入学生を確保し、学納金収入の現状維持を図りたい。
教育研究財源の確保としての補助金の確保	私立大学等経常費補助金の一般補助と特別補助について、例年通り申請するが、補助金制度が平成23年度もICT(Information Communication Technology)が特別補助から一般補助に移行するなど、前年度から大幅に変化し、また今後も変化することが予想されるので、慎重に対応したい。また、文部科学省の直接補助である研究設備整備費等補助金についても、研究室委員会及びその他の部署との連携で申請したい。
募金事業	学園80周年記念事業推進資金として2億円の募金目標を設定しており、平成23年度は綾栄会募金を併せて目標額4200万円をほぼ達成した。平成24年度目標額は7000万円。経済的不況により厳しい状況であるが、学園の建学の精神をご理解頂き、多くの方にご芳志をお願いするとともに教職員に対しては年収の1%募金を目標にお願いして募金活動を内部から盛り上げ、活発化していきたい。

支出の部

事項	計画内容
人件費支出の抑制管理	教職員の退職者補充を最小限にとどめ、教職員給与・賞与など人件費節減抑制を目指す。アルバイト人件費の計画的削減、ノー残業デー強化実施による超勤抑制に対する教職員の意識高揚を図り、超勤手当の削減につなげる。

三、その他の事業

① 教育に関わる事項

区分	事項	計画内容	
大学院 大 栄 養 学 部	教育の充実	修士課程特別奨学生制度により、継続して優秀な入学生を確保し、修士課程長期履修学生制度により、社会人入学生に対しての便宜を拡充させる。また、在学生向けの大学院説明会を開催し、特に栄養学部出身者の本学大学院進学に向けての強化を図っていく。	
	教育の充実	栄養学部	平成 23 年度入学生より、栄養学部では「共通特論Ⅰ～ⅩⅤ」を置き、読書習慣をつけ、専門外に視野を広げ、語彙を豊かにすることを目的とする「共通特論Ⅰ(読書) 必修2単位」を1年通年で開講した。 24年度においては、「共通特論ⅩⅡ(ジェンダー・セクシュアリティ論)」「共通特論ⅩⅢ(教育史)」「共通特論ⅩⅣ(英語 e-learning 実習)」をそれぞれ選択2単位で開講することにした。
		実践栄養学科	「管理栄養士国家試験出題基準改定」に伴い、本学における管理栄養士教育について検討を行った結果、平成 24 年度入学生から新カリキュラムがスタートする。
		保健栄養学科 栄養科学専攻	平成 24 年度入学生より、①家庭科コース②健康スポーツ栄養コース③臨床検査学コース④食品安全管理コースの4コースを設置し、1年前期に各コースの「プレセミナー」を開講し、所属コースを決定させる。科目の履修確認には「共通履修カルテ」を作成させ、学生本人だけでなく担任やコース担当教員との情報共有として活用する。
		保健栄養学科 保健養護専攻	平成 23 年度入学生より、カリキュラムについて、単位のスリム化・科目の学年別配置の最適化を行い、運用中である。また、養護教諭採用試験対策として、一般教養・小論文・教職教養・養護専門について、各担当教員が問題作成を行い、各学年において目標値を設定し、3回の対策試験を実施、学生の採用試験情報収集や学習の場として「養護教諭教員対策試験室」を設置等の取り組みを行う。
		食文化栄養学科	平成 22 年度入学生のカリキュラム改訂が行われ、24 年度3年生の「コースの帰属」におけるコース選択及びコース科目の履修について、各コースの履修方法等決定へのプロセスについてガイダンスを実施する。
	学生の経済支援について	学費納入が遅れている学生については、家庭状況を確認し、本学奨学金の紹介を行う。また、災害等の被災学生についても奨学金情報(日本学生支援機構、本学奨学金)を提供する。	
課外活動の充実	授業の5時限開講により、活動時間が短くなっているが、クラブ・サークル活動活性化のサポートに努める。例年通り、若葉祭や学内スポーツ大会のサポートを行う。		

区分	事項	計画内容
大学 栄養学部	メンタルケアについて	気軽に学生が利用できるようカウンセリング室の広報について検討する。保健センター、担任、保護者等と情報が共有でき、的確に学生がサポートできるように努める。カウンセリング研修会参加により学生担当職員のスキルアップを図る。
	学生寮（若葉寮）について	寮内備品のリニューアルを検討する（IH、ベットマット等）。例年通り、歓迎会やクリスマスコンパ等のサポートを行い、寮生間の交流を図る。退寮後の一人暮らしについては十分な安全指導を行う。
	就職率の水準維持	学生への個人対応や求人先との密な連携構築、さらに 80 周年記念行事に参加する卒業生との関係強化をはかり、これまでと同水準の高い就職率の維持をはかる。
	臨任教員 求人の開拓	新卒での教員採用試験の合格率が年々低下するなか、非正規採用で経験を積んだ後、翌年以降再チャレンジに臨む学生が増加傾向にある。これらの学生への臨任採用情報を得るため県や市町村の教育委員会に情報提供を積極的に働きかける。
	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の新規申請	文部科学省へ平成 24 年度から 3 年計画の新規事業申請を行なった（2 月 2 日提出）。 「大学の特色を活かした研究」研究プロジェクト名：成長期のライフスタイルと身体状況に関する多面的研究、研究組織名：生活習慣病研究センター、研究代表者：上西一弘教授、参加研究者：7 人。選定結果は 3 月中（予定）。
大学・短期大学部 栄養学部 二部	教育の充実にかかわる支援	入学直後に行っていた「何でも相談コーナー」に加え、平成 24 年度より『履修相談』として期間を設け、一人ひとりが単位の取りこぼしが無いように親切丁寧に指導を行う。
	学生生活支援	家庭環境や精神的な面での支援を必要としている学生が、担任や授業担当教員にいつでも相談できるような環境に加え、カウンセラー相談日を増やし学生が相談室を気軽に利用できるような環境を充実させる。
	就職活動の支援	就職活動の支援対策として、採用試験の対策強化に取り組む。特に一般常識・適性検査などの模擬試験を実施した後に対策講座を行い、根底の理解を深めることを目的とする。また、精神的な支援を必要とする学生に対して、的確にサポートしていくために、教職員との連携を密に行うこととする。
	二部再生に向けて	二部再生に向けて、24 年度より e-learning を活用した多彩な学修機会充実のため、教務学生担当において活性化のサポートを行う。 「食と健康」に関して社会人の再教育に目標を置き、学修モジュールアップに向けた教育課程の見直しを行い、効果的な学修環境の構築を目指す。
専門学校	海外留学への積極的取組（テクニックコース）	西オーストラリア、パースにある公立高等教育施設（Polytechnic West=旧校名 Swan Tafe）との教育プログラムを平成 16 年度に締結。平成 24 年度は期間を 4 週間に短縮し調理を通じて活きた英語を学ぶ短期留学制度を引き続き実施していく。
	多彩な資格取得の為にカリキュラム（調理マイスター科、調理師科、製菓科）	（社）全国調理師養成施設協会「食育インストラクター認定登録資格」、（社）全国調理職業訓練協会「介護食士 3 級認定資格」「キュージーマヌ&バンケット（C&B）コーディネーター3 級認定資格」「ラッピングクリエーター3 級認定資格」「カフェクリエーター3 級認定資格」等を付与する。

区分	事項	計画内容
専門	教育付置施設での実習教育	校内の営業店「レストラン松柏軒」「菓子工房プランタン」で年間30時間に及ぶ「臨地実習」教育を行っているが、今年度も同様に校内ならではのきめ細やかな実習を実施する。
	公開講座「介護食士認定講習」の開講	本格的な高齢者社会を迎え、全国調理職業訓練協会の介護食士2級、3級資格の夜間認定講習を引き続き開講する。
学校	デュアル実習を取り入れたカリキュラム	平成21年度よりスタートさせた2年制の調理マイスター科では「学びながら働く」「働きながら学ぶ」というデュアル実習を授業に取り入れている。合計300時間に及ぶデュアル実習を通じて21世紀の業界を担うマイスター（職人）を養成する。

② 研究に関わる事項

区分	事項	計画内容
栄養科学研究所	研究所講演会	本年度は11月17日に80周年記念事業として挙げる。
	学外からの各種研究助成金の受け入れ	例年通り、企業や団体から研究費を受け入れる。
	研究所助成金の審査と配分	例年通り、研究所助成金の研究計画を募集し、審査の後に配分する。
	〔研究プロジェクト名：先進的な栄養学による坂戸市民の健康づくり〕の最終報告書作成	21年度から3年計画のプロジェクト〔研究プロジェクト名：先進的な栄養学による坂戸市民の健康づくり、研究組織名：地域食育センター、研究代表者：副学長 香川靖雄、学内参加研究者：26人〕の最終年度にあたり、市域住民を対象とした公開講座等を企画・開催するとともに、文部科学省へ3年間の研究成果報告書を提出する。

③ その他の事項

区分	事項	計画内容
自己点検・評価	自己点検・評価への取り組み	短期大学部は平成19年度に（財）短期大学基準協会、大学は平成20年度に（財）日本高等教育評価機構の機関別認証評価を受審し、共に適格の評価を得ているが、平成24年度も継続して点検・評価を行い、学園ホームページで公表する。また、毎年度の評価結果を踏まえた見直しを実施する。
	改革・改善への取り組み	学園自己点検・評価委員会は、各部会により建学の理念・目的に照らした点検・評価を行っている。平成26年度に短大部、平成27年度に大学が第2クールの機関別認証評価を受審予定となっているので、報告書の問題点を洗い出し、徹底的な見直し、改革が必要になってくる。今後はP(Plan)D(Do)C(Check)A(Action)プロセスを構築・強化し、スピーディーな改善・改革につなげていく。

区 分	事 項	計 画 内 容
労務管理	No 残業 Day キャンペーンの強化実施	ノー残業デーキャンペーンを一層充実させ、超過勤務削減に対する学内意識の高揚を図り超勤手当削減する。
	SD (Staff Development)	昨年度に引き続き、SD の充実により、職員の育成強化を図る。階層別、業務別研修を計画的、体系的に実施し、職員のスキルアップに繋げる。
	目標管理	目標管理については、外部研修による訓練等を通して、制度の内容充実を図り、目標達成による職場活性化・職員のモチベーションアップにつなげていきたい。また上司による達成度面談、評価方法など研修・訓練を行い、将来的には達成度評価結果を処遇に反映させる仕組みを模索したい。
周年行事	学園創立 80 周年事業	平成 25 (2013) 年の創立 80 周年に向けて、各種行事や事業の実施を通じて、これまでに蓄積された教育研究資産と人的・物的資産の見直しと掘り起こしを行い、これらを新しい観点から有機的に組み合わせて、次の 10 年を拓く教育研究体制の整備と重層で多様な人的ネットワークの構築の契機にすることを目的に記念事業の実施及び準備を進めていく。
情報	インターネット接続回線の見直し(継続)	教材の高度化に伴ってデータ流通量の増加が見込まれるインターネット接続回線について、サブ回線として契約している光回線をより効果的に活用出来るよう、契約内容の見直しを行う。
	PC 仮想化(デスクトップ仮想化)の検討	PC の導入コスト・管理コスト低減のため、仮想 PC に移行するための検証に着手する。仮想化が必ずしもコスト低減に繋がるとは限らないため、その適用先について検証・検討を行う。
図書館	図書・学術情報の整備	電子ジャーナル・オンラインデータベースの提供、洋古書、研究図書、専門図書の充実により学術情報の整備を図る。学位論文公開の推進を図る。
	教育・研究支援	授業参考図書の設置を行う。読書教育の一環として学生による書店選定、施設見学ツアーの実施等による図書館利用を促進する。科目『読書』(大学)に係る図書の整備ならびに連携を行う。本学の特色ある専門授業等を OCW (Open Course Ware) へ追加、公開する。
	図書館(短大部・専門学校)の活性化	創立 80 周年記念事業・図書館改修整備における利用者要望の反映ならびに学習の場としての機能の充実を図る。
	文部科学省補助金	研究設備補助金収入の取得が可能な洋古書は、補助金収入の取り組みを行い、整備し、蔵書の充実を図る。

区 分	事 項	計 画 内 容
保 健 管 理	保健管理のシステム化	保健管理のシステム化：学園の学生・生徒および教職員の受診すべき各種健康診断（定期健康診断、特定検診、人間ドックなど）の実施・成績管理・事後の指導をシステム化する。 保健指導のシステム化により、労働安全衛生管理（放射線取扱者、有害化学物質取扱者らの健康管理を含む）および特定保健指導の対象者への対応を一元化する。
	感染症対策	学校感染症に関する基礎教育を充実させるよう教育担当者と協議し、学園内における感染症の集団発生を予防する。とくに、麻疹については感染力が強いため、入学前の第4期の予防接種の勧奨、入学時の抗体検査を実施し、その結果に基づきさらなる予防接種を勧奨する。 学外実習に先立つ抗体検査・予防接種などの指導・勧奨をシステム化することにより、学生への個別指導を適正・迅速に実施可能とする。
	BLS（一次救命処置）教育の実施	AED（自動体外式除細動器）の使用を含む救命救急法については、トレーニングセットを生理学実習で貸し出し、授業に協力している。さらに、新ガイドラインに基づく実技指導を、学園祭でも看護師等が地域消防署指導の下で学生・生徒・学外参加者等に受ける機会を設けている。今後とも、全学生が在学中に実技教育を受けるよう努力する。
入 試 広 報	学生数の確保	大学、短期大学部の収入の基盤である学生数確保については以下の「学生募集の強化1～6」を成し遂げる。なお、学生確保に当たっては、定員管理に充分配慮しつつ、実施していきたい。
	学生募集の強化	
	1	学部卒業生や退職者を積極的に活用し、卒業生による高校訪問や高校内ガイダンスの充実を図り、高校現場に女子栄養大学の魅力を広めていく。（継続）
	2	オープンキャンパスを13回実施し、年間の参加者7,500人を目標とし、過去最高の参加者数を目指す。そのためにダイレクトメールのデザイン強化、配布などをさらに充実させていく。（継続）
	3	ネット媒体、雑誌媒体、新聞媒体を利用し、本学の強みをより一層広報していく。高校生だけではなく、未来の受験者予備軍である中学生や小学生にも本学の認知度を高めていく広報活動をさらに強化する。（継続）
	4	保護者用パンフレットのリニューアルを行い、高校生の保護者の方々に、本学の取り組みをより深く理解していただけることにし、志願者増に結びつける。（継続）
	5	「女子栄養大学レシピサイト」を23年度に事業計画通り開設したが、24年度は、このサイトを多くの小学生～高校生、またその保護者が訪れるしかけ作りに全力を注いでいく。将来の受験生予備軍のPR戦略の一環としたい。（新規）
6	携帯電話からスマートフォンに変わりつつある現状をふまえ、入試ホームページを携帯に加えスマートフォンにも対応できるように着手する。（新規）	

区分	事項	計画内容
学園広報	エクステンション事業 (香川綾記念講師派遣事業)	国をあげて推進する「食育」に伴い、幼・小・中・高校、並びに高齢社会到来という時代背景もあり、栄養・食・健康に関する行政・社会団体・企業等からの講演依頼が急増している。その対応策として、平成 11 年度より発足させた講師派遣事業の一層の充実を図る。(平成 23 年実績 372 件)
	学園広報の取り組み	カフェテリアのメディア露出増に伴い、栄養クリニック・出版部・プラント・松柏軒など事業部の認知度アップにもつなげる。 産・官・民・学の連携による共同事業の拡大、食を通しての社会貢献により社会的認知を高める。 現在の広報手段として最も有効と考えられるウェブサイトの整備、充実に注力する。 入試広報の後方支援として、スポーツ栄養セミナーを5会場(埼玉・長野・新潟・静岡・宇都宮)で実施、全国的認知をさらに深める。またイブニングコース、キャリアコース等の志望者へ「社会人のための入学相談会」の開催(8回)や、数多くの高校訪問をし、高校教員とのパイプ構築に伴う志願者増に努める。 学園祭へ連携自治体・教育関係団体などによる出展等の協力のほか、地域イベントへも積極的に参加し、さらに地域との連携を図る。 学園誌「香窓」、学園総合案内「Locus」等の広報誌についても、より一層の充実を図る。
	香友会・卒業生へのアプローチの強化	学園誌「香窓」を平成 23 年度夏発行分より、在学生保護者の他、全卒業生を含む約 26,000 件へ送付している。卒業生とのつながりを密にすることで、学園や香友会とも協力関係をさらに強くし、リクルート等への学生支援につなげる。
	保護者会の運営	平成 23 年度に大学・短期大学部に保護者会を設立した。平成 24 年度は学部3 学年保護者までが会員となり、地方 2 会場でも保護者会を開催する。「栄養と料理セミナー」への参加者増をめざし、その諸活動を通じて、本学の取り組みに一層のご理解をいただき、学生ならびに本学への支援の輪をさらに広げる。
	料理教室の認定制度の発足	本学園を卒業し、「料理教室」を主宰・運営されている方に対し、その社会的活動を奨励・支援することを目的に「料理教室の認定制度」を導入する。認定委員会により認定された方には、「女子栄養大学認定校」の名称を使用可能にするなどの特典を付与する。
	学生県人会への協力	在学生の縦の結びつきを強化することを目的に、県人会が活性化するように協力する。平成 23 年度は各県ごとに会合を開き、顔合わせを行った。平成 24 年度は学園祭への出展計画を進めている。香友会とも連携し、リクルートにもつなげたいと考えている。
	国際交流センター	海外研修の実施
海外の大学等との交流		平成 6 年より提携しているオーストラリア・パース市に位置する 3 大学、平成 24 年 1 月に覚書きを提携したタイ・マヒドン大学公衆衛生学部との積極的な交流を図る。また、平成 22 年にソウル国立大学生生活科学部との間で、学生交流に関する合意書が締結されたことにより、1 人の韓国学生を 8 月から 1 年間受け入れた。なお、23 年、24 年と、日本学生支援機構の奨学金が支給され、23 年も 24 年 8 月まで 1 人受入れ、さらに 24 年度も 9 月から 1 人受入れる予定である。

区 分	事 項	計 画 内 容
生 涯 学 習 セ ン タ ー	社会通信教育の実施	文部科学省認定社会通信教育「栄養と料理講座」とスクーリングを実施し、機関紙を発行する。また、これに関連した成績優秀者表彰式、生涯学習ネットワークフォーラム等のイベントへの参加。ホームページの充実、講座の広報・宣伝活動を行う。
	『食生活指導士』制度の充実	『食生活指導士』の資格取得者（在学生、卒業生、通信教育修了生）を増やし（現在：1級 591人、2級 1127人）、制度の充実を図ることにより、受講生確保に繋げる。また、資格取得者を対象としたスキルアップ講座を開講し、併せて四群点数法の普及を行う。
	DVD『管理栄養士試験合格支援講座』（通信）	初期投資費用は既に回収済であるが、更に受講生獲得に努力する。結果、本学出版部発行の関連書籍の売り上げ増に繋げる。主教材 DVD 再収録を行う。
	人材バンク事業	社会通信教育協会認定資格「生涯学習インストラクター」の登録と「まなびの達人・あそびの達人」の認証に係る一連の事業を実施する。
	講習会・公開講座開講	女子栄養大学栄養学講座・「料検」合格対策講座・スクーリング、家庭料理コース・ベーシックコース等の各種講座を開講する。
	管理栄養士国家試験対策模擬試験の展開	社会人を対象とした「女子栄養大学オープン模試」の年2回実施を定着させて団体受験者数の拡大を図り、会場（本学）と自宅（通信）にて実施する。
	女子栄養大学生涯学習講師事業	認定者の管理及び講師派遣事業。将来的に卒業生の1%（400人）を目標として取り組む。
	香川料理教室の開講	日本料理コース、パン（基礎・応用）コース、こどもクラスを開講する。
	文部科学省後援家庭料理技能検定	「文部科学省後援 家庭料理技能検定」の実施。自己評価シートの継続実施。学校等の団体受験に向けて広報活動の強化を行う。成績優秀者表彰式の開催。特定非営利活動法人「全国検定振興機構」並びに連合会の活動に参加する。
	各種テキストの作成	「学習ガイド1・2級」改訂版、「料理検定過去問題集 2013」の作成。 「料理の基本」「日常食の料理」「よい食事の計画」「調理理論」「病人食」のテキスト再販。学習指導書（一般）、各テキストに付随する課題報告書の再販。CD-ROM を再販する。
	文部科学省事業への参加	文部科学省主催「成績優秀者表彰式」「生涯学習ネットワークフォーラム」「早寝早起き朝ごはん」等の各種イベントに参加協力する。
	受講料	ここ数年、文部科学省認定社会通信教育の受講生数減という社会的傾向がある。当通信教育はリスティング広告やホームページ等、広報媒体の工夫と「食生活指導士」認定制度の活用により、受講生確保を行い、収入の維持増加を図りたい。
	管理栄養士講座DVDの収録作成費	管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）の改定に伴い、通信教育「管理栄養士国家試験合格支援講座」の主教材であるDVDの再収録を行う。

区分	事項	計画内容	
附帯事業	プランタン	製菓科生徒のプランタン実習	製菓科における、付置教育機関「プランタン実習」により現場における即戦力を育て、社会人として通用する人間教育を行なう。
		学部生における実習	食品開発実習などにおける、新製品の開発に努める。
		葉酸を使用した製品製作	葉酸を使用した製品開発を行い、お客様に提供する。葉酸の栄養価を普及させる。
		地域におけるイベント参加	学園広報と協力して、企業のイベントに参加するなど、菓子教室の講師活動を行う。
		近隣の地域との提携	駒込、坂戸の地域におけるイベントに参加する。近隣の方に対し、日頃の感謝をこめて協賛として活動に参加、協力していく。
		企業と提携	各企業との提携による製品開発への取り組みを行う。
		学園の広報活動	学園の広報機関のひとつとして、イベントなどに多数参加する。
		カフェの充実	売上の向上を目的としたカフェドリンクの充実を図る。
		アルバイト	アルバイト費用の削減に努力していく。
		販売における売上額の増額	栄養があり、高品質で安全な製品作りを実践し、販売していく。
		材料費・包材費の見直し	現在使用している、材料・包材について品質・原価を見直す。価格検討。包装紙、紙袋など、新しいデザインに変更する。
	80周年式典準備	式典に向けて、プランタンとして活動準備を行う。	
	松柏軒	売り上げの増収増益	創意工夫をし営業努力を怠りなく行う。安心、安全、信頼をモットーにし計画的、効率的に事業を行なう。品質、味へのこだわり商品（料理）を作り続け接客の質の向上をはかる。管理体制の強化を図り、作業効率化の向上を行う。全体の集客率を上げる。
		出版本の収入	出版本「女子栄養大学の学生食堂」「女子栄養大学のカフェテリア」の収入増における宣伝努力を行う。
		80周年事業イベント	学園80周年事業開始に伴う懇談会、情報交換会、弁当等の提供を行う。
		アルバイト	管理体制、シフト体制を強化し見直しを図る。
		仕入れの見直し	原材料の価格及び仕入れ先の見直しを図る。食材料だけでは無く、消耗品等の削減を図る。価格変動などの情報収集の強化を図る。
		事業の開拓	教育施設（幼・小・中・高・大）・企業へテーブルマナー・作法の売り込みを図る。主催としてのイベント企画及びイベント事業の参加。学園直営のメリットを生かした、他にはない付加価値のある事業の開拓を図る。
		ギフト商品の開発	安心安全な商品の提供をモットーとしたギフト商品の充実を図る。
		企業との提携	各企業と提携して商品を製造及び開発する。企業等への献立、レシピ、作業指導での事業努力を行う。
近隣の地域との連携		近隣のレストラン及び企業、商店とのイベント協力、参加、商品開発、レシピ提供を計画する。	
区との連携	豊島区・北区へ食育・福祉関係での料理の協力、企画等に参加する。		
専門学校生徒の実習	付置教育施設としての生徒の育成。生徒への実践教育・指導。即戦力となる人材の育成を図る。		
学園の広報活動	学園の広報機関として、様々なイベントを通しての広報活動に参加する。		

区 分	事 項	計 画 内 容
収 益 事 業	出版部	ここ数年の人員減に対応し、職員個々の業務量の増大を、個々のスキルアップと内部の連携の強化および効率的運用により解決し、より利益貢献できる体質作りを目指す。また、学園の理念の浸透のために従来型の出版範囲に囚われず、新たなメディアへの展開を模索する。
	代理部 「サムシング」	お客様の要望を捉えつつ学園の直営店としての特徴を活かし、他部署と協力しながら集客増、売上げ増につながる店舗作りをすると共に年度予算を達成できるよう努力する。